

平成23年度 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会  
御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金事業提案説明会・審査会 議事録

日 時：平成23年6月26日（日）10：00～14：30

場 所：御殿場市民交流センター「ふじざくら」第3・4会議室

参加委員：委員13名（渡邊会長・勝亦・志水・湯山・高杉・日比野・勝間田・鈴木・  
山崎・滝口・杉本・杉山・南） ファシリテーター1名（牛山教授）  
合計14名

事務局：田代課長・瀬戸統括・高杉副参事・鈴木主事（市民協働課）

1 開会  
事務局

2 会長あいさつ  
会長より

3 市民協働型まちづくり事業提案説明及び質疑応答  
事業計画書に基づき、5団体より事業説明が行われた。説明後の質疑応答は以下のとおり。

（1）市民提案事業

①事業名：御厨の古道へ ～矢倉沢往還 箱根裏街道～を記録に残そう  
提案者：NPO 富士山御殿場ガイド「御厨の風」

委員A：調査等を1年目にすべて行い、2年目以降に看板設置を行うのはどうか。

A：地域の方々との話し合いと並行して看板設置も行うつもり。

委員A：1年目にこれだけ実績があったので次年度はこの事業を行うという流れになれば。

A：調査だけになると弱い。単年度だけだと難しい事業。地元の古道を地元の皆さんに大切にしていきたい。

委員A：看板設置後の活動や管理はどうするか。

A：看板に痛まない処理を施し、商工観光課を中心に会を設置し、区長会などに協力をお願いしたい。次世代に向けて御厨の巡礼などもやりたい。

委員B：バスは何に使うか。

A：深沢～神山まで広範囲にわたる。古道の全体を知ってもらいたい。

委員B：看板製作は協働で行うか。

A：できれば地元の団体で行いたい。

委員B：地元の人々を巻き込んだやり方を期待する。

委員C：市民は古道に関して理解不足。看板製作のみでは微妙。

A：市民にはなじみが薄いですが市で最も重要な道。機関紙等を通じてPRしたい。

②事業名：「発達障害児・者とその家族に対する療育相談会」事業

提案者：NPO 法人発達支援センター御殿場教室

委員D：申請書にある活動実績で、過去の事業への参加人数、参加費、行政等何らかの支援を受けたか知りたい。

A：場合によるが1回10名程、参加費は一切無料、行政の支援も受けず開催。

委員D：協働のあり方について。協働相手の役割は単にパンフの掲示・配布のみなのか、さらに一步踏み込んだ協働を求めるのか。

A：幼稚園や保育園の先生など、現場の方々が最も理解があるので、先生から親御さんにパンフを渡してもらい、お知らせできれば。ただ、先生や親御さんの負担になることを懸念し、現段階では案内のみ行う予定。

委員A：NPO 団体として、自己財源を確保することは考えているか。

A：今後他の助成を考える。

③事業名：「科学的な考え方、数理の楽しみ方入門」事業

提案者：御殿場 基礎科学研究会

委員E：レクチャーについて、会員15名には知識があるか。

A：ある。

委員E：なぜ大学教授を招くのか。団体のメンバーだけでできないか。

A：現役の大学教授を知ってもらうことと、数理の楽しみ方などもそれぞれのなで、視点が違う考えが開ける。

委員A：各教育関係が見学することは可能か。

A：公開する。

委員A：参加者満足度はどのように発表できるか。

A：アンケートの活用。

委員D：活動結果をどう考えていくのか。

A：参加者のアンケートだけでなく、総合的評価を公表し、取り組み方がよかったかどうか検討していく。

委員C：難解な点が多い分野だが、協働としての関わり合いを持ちたい意識が強いのがわかる。旅費の削減など、メンバーでできる範囲から始めてみれば。

委員B：学習塾的な内容に感じられたので、もっと生活に密着するようにし、ネーミ

ング等も再考してみれば。

事務局：レクチャーの具体的内容は。

A：大震災に関連する地震計の確認など。関心を持ってもらうことが大切。

④事業名：産後エクササイズ教室

提案者：御殿場マタニティサポート

委員A：補助金交付終了後の活動は。

A：個別教室の有効性を知ってもらい、会場を借りたい。広報をしっかりとやりたい。ボランティアも募っていききたい。

⑤事業名：農作物の放射線の影響を正しく理解し消費者、生産者の安全、生活を守る

提案者：JA 御殿場農業大学校 OB 会

委員F：市民に関心を持っていただけるように PR していただきたい。

委員A：講師によって知見が違う。講師との調整は。

A：企業、行政、完璧な市民寄りではない市内在住の人を考えている。

委員A：なぜ行政でできないのか（行政に対して）

事務局：県の方針もあるので市としては行わない。今回の提案に対しては広報の協力をすると伺っている。

委員B：1 回限りの講演だけではもったいないので、パネルディスカッションを加えるなど、行政との協働を充実させてほしい。

## (2)行政提案事業

①事業名：富士岡地区ふるさと景観づくり事業と市民参加のイベント実施

提案者：NPO 法人富士の麓・水と緑と風の会

委員B：市民提案の最初の提案と協働できないか。頭の中に置いておいてほしい。

A：イベント、パフォーマンスをする団体ではないが、機会があったら考える。

## 4 講評

文化・福祉・健康・農業・景観など様々な提案があってよかった。たくさんの住民に利用していただけるような事業が望ましい。応募団体の減少が気になるが、市民・行政双方に地域力向上のため力を入れていただきたい。

## 5 閉会

## 6 市民提案事業審査会（進行：ファシリテーター）

発表と書類をあわせて審査が行われた。

まずはじめに委員に各々が「賛成する事業」、「反対する事業」に挙手していただく。なお、この段階ではまだ判断できない方は無挙手も認めることとした。その後各事業ごとに審査を行い、再度挙手して頂くが、2回目は「賛成する事業」、「反対する事業」に加え「条件付きで賛成する事業」という3択の中から挙手をして頂き、その結果をもとに最終審議に移るという流れで行われた。

### 1 回目挙手

団体名	賛成	反対	不明
① 御厨の風	7	2	4
② 発達支援センター	1 1	0	2
③ 基礎科学研究会	5	2	6
④ マタニティサポート	1 2	0	1
⑤ 農業大学校 OB 会	1 0	1	2

最初の段階でどちらかに決めかねる人が最も多かった③から審議開始。

#### ③ 基礎科学研究会 について

委員G：レクチャーの対象人数が少ない（60人）。

委員F：難解なことがわかりやすく理解できると思うので賛成。

委員D：なぜ全国から集めるのか。地元や内部に素晴らしい人材がいるのだからそれらの人を積極的に活用。そうすれば他のモデルにもなりうる。

委員C：通常の市民活動とは違うが、活力ある団体であり、修正すべき点はあるが育てていくべき。

委員H：学生が少なくなっている中でよい提案。旅費の問題さえ解決できれば。

委員B：団体について市民の認識が薄いのでどこまで集まるか。まずは団体としての活動を広め、成功してから次のステップに移れば市民にも受け入れやすくなる。

③の審議の中では報償・旅費合わせ20数万円かけてなぜ全国各地から講師を招くのか、部分採択という考え方もありうるのではないかという意見が中心となった。次に、賛成の多い②④⑤の審議へ。

#### ② 発達支援センター について

委員B：NPOとしての活動資金になってしまうおそれ。

ファシリ：NPO法人の目的は、非営利活動であり、また市民を広く対象にしている。

委員F：障害者のいる家庭は国から補助を受けているはずだが。

ファシリ：それだけではまかなえない部分では。

委員E：子どもの指導をする事業ではない。

委員G：補助金で対応できないか。

委員I：最初から補助金ではなく、このような制度で実績を上げ、必要があれば補助金を検討するのはどうか。

委員J：賛成していただきたい。過去に子どもを連れて行政に相談しに行ったことがあったが、教育委員会など十分な対応がされなかった。

特に反対意見が出なかったので次の審議に移ることに。

#### ④ マタニティサポート について

委員G：賛成。参加人数を増やすため広報の充実の必要。

委員H：外部講師委託料の詳細について知りたい。

→ 事務局で確認。

確認結果：外部講師は今まで4人おり、今年度はさらに増える可能性も。

4人の外部講師は全員御殿場市外の人だが、講師に支払うのは交通費のみで実質ボランティア。2名となっているのは事業の規模的に1回あたり4人中2人の講師で足りるため。藤枝・山梨とあるのは、予算編成時にこの2人が正式に講師として参加することが判明していたという意味で、今後増える可能性はあるが予算の範囲内で対応するとのこと。6回とあるのは、「個別指導の6回」という意味ではなく、申し込み人数などにより講師の数変動するため、昨年度の状況を参考に予算を組み全体で6回と計算したとのこと。

#### ⑤ 農業大学校OB会 について

委員D（反対1）：シビアな問題。人体に関わる問題は行政が責任を持って行うべき。農業と飛躍しすぎでは。

委員K：どういう講師でどのような説明が来るか心配。市民の不安を煽らないか。市が補助金を出して市民の不安を煽る結果になってはいけない。

委員C：国や県の指針もないので、市民のみでやってほしいが。やるのはいいが、違和感が残る。あくまで、一つの考え方であるという享受の方法が必要。

委員I：市として方向性が示せないのが微妙。

委員K：安心だよと伝えられれば市民は安心するが、伝え方が心配。成果によっては地産地消にもつながる。

委員B：開催方法を協働相手と十分に相談してからの開催を望む。

⑤に関しては、タイムリーな事業であると同時に、その内容によっては市民協働事業として行政の方針や市民に対する影響など懸念すべき点が多いので、事業自体を取りやめるか、または事業内容に制限、条件を設けるべきなどの意見が上がった。

しかし、行政側が〇〇の立場で行えとは一概に言えない部分もあり、当事者同士が事前に綿密な相談、確認を行っての開催という方向になった。  
最後に①の審議。

#### ① 御厨の風 について

委員 I：看板の維持方法など具体性がなく将来が見えない。

委員 L：古道を PR する方が先ではないか。PR が成功して看板設置の方がよい。設置して放置になってしまうのはよくない。

委員 F：尻切れトンボになるおそれ。

委員 E：社会教育課との協働とあるので、相互に発展していければ。

委員 I：関係する区と連携できれば。

委員 G：最初から看板設置は微妙。バス代も微妙。一年かけて地元との協力を。

①の審議では、今年度の看板設置は行わず、まず今年度は地元の協力を得ることを第一に行うという条件付きで交付決定したらどうかという案が出た。

ここで、提案説明会時の評価用紙点数の開示とともに、2回目の挙手が行われた。

#### 事業提案説明時評価点数結果（60 点満点）

団体・事業名	平均点数
① <u>御厨の古道へ ～矢倉沢往還 箱根裏街道～を記録に残そう</u> 団 体 名：NPO 富士山御殿場ガイド「御厨の風」	37.9
② <u>「発達障害児・者とその家族に対する療育相談会」事業</u> 団 体 名：NPO 法人発達支援センター御殿場教室	42.2
③ <u>「科学的な考え方、数理の楽しみ方入門」事業</u> 団 体 名：御殿場 基礎科学研究会	38.1
④ <u>産後エクササイズ教室</u> 団 体 名：御殿場マタニティサポート	47.8
⑤ <u>農作物の放射線の影響を正しく理解し消費者、生産者の安全、生活を守る</u> 団 体 名：JA 御殿場農業大学校 OB 会	41.8

#### 2回目挙手

団体名	賛成	反対	条件付賛成
① 御厨の風	0	1	12
② 発達支援センター	12	0	1
③ 基礎科学研究会	1	0	12
④ マタニティサポート	12	0	1
⑤ 農業大学校 OB 会	1	3	9

以降最終審議へ。

ファシリ：②と④を条件付賛成としたことについて意見があれば。

委員F：②については、国からの支援を有効活用してほしい。④はDVDなどの利用で、家などで自分でやれることもある。

ファシリ：条件付賛成というより反対意見に近いということではよろしいか。

委員M：②に関しては協働相手が多いが、調整は十分か。

事務局：不十分な恐れがある。

ファシリ：協働体系はチラシの配布をお願いするとあるが、万が一チラシ配布が無理だからと言って事業否定はできない。

委員H：事務局で協働してくださいと相手に頼めないか。

事務局：相談する。

ファシリ：②と④は全額採択でよろしいか。

一同：承認。

→ ②発達支援センター、④マタニティサポートに関しては全額交付決定。  
ただし、②は、協働相手との打ち合わせを密に行う必要性がある。

①に関して

ファシリ：先程の議論にあったように看板は地区との調整を行った後やっただくことにし、今年度交付金は看板設置費を外した額の交付決定をするか多数決をとりたい。

A 賛成 → 7人

B 反対 → 5人

委員A：事業を行う過程を市民に向けて発表してほしい。

→ ①御厨の風に関しては看板設置費を外した15万円の交付決定。

ファシリ：③に関して、条件付賛成が多数だが、その条件について全国の大学から講師を呼ぶ点につき多数決を採る。

A 講師報償を認めず、旅費も認めない → 2人

B 講師報償は認めるが旅費は認めない → 11人

→ ③基礎科学研究会に関しては、講師は市内や近隣の人、または内部の人に頼む。あるいは旅費に関しては別口から支払う。

ファシリ：⑤に関しては議論で出たように、講義内容、開講形態を協働相手である行政と綿密に相談して事業を行うことを条件とし、交付決定を行うか。

一同：承認

→ ⑤農業大学校OB会に関しては事前に講義内容・開講形態について協働相手と十分に調整し、ほかの事業形態も模索することの条件付交付決定。

※ 審査の結果、市民提案部門に5件の事業を採用することに決定。  
ただし、うち4件は交付にあたって条件を付す。

## 7 審査会終了

### その他

委員G：協働相手として、どの程度まで提案してきた事業を受け入れるかの裁量はあるか。部分的にNOと言えるか。

事務局：課としての意見は当然述べるべき。